

問 「また聞き
カウンセリング」について

なによりも精神的ケアは慎重かつ時間をかけなければならない。早期の解決や効率よくというのは、もともと向かない分野である。カウンセリングは「また聞き」ではなく、対象と直接向き合って、身体情報も含めて行うべきと考えるがいかがか。

答 複数の場で、
支援の充実に努めていく

児童・生徒や保護者に対するカウンセリングは、各学校の教職員が実施するほか、各学校に配置された相談員による相談体制を整えている。また、教育支援センターや教育委員会で、来庁による面談を受け付けている。今後も児童生徒の支援の充実に努めていく。



遠藤 誠 議員
(清明会)



問 押しなべて国土は脆弱

先の台風で我が国の災害に対する体力が試された。国土強靱化計画もいつの間にか防災だけでなく減災と言い出した。自然に対しては強靱ではなくしなやかであることが必要なのではないか。また、河川については浚渫による河道の確保が必要ではないか。

答 台風対応で学んだことを
教訓にする

台風への対応については多くのご意見をいただいている。その意見の一つひとつを検証・研究し、学んだことを教訓として、市民の安全を最優先に考え、今後の災害対応に従事する。河川は管理者である県と連携し適切に管理していく。

問 台風被害について
今後の対策は何か

今回の台風被害はどのように把握したのか。どんな被害がどの位あったのか伺う。市民に正確で迅速に情報を伝える為、被害状況の確認手段としてドローンの導入を図り、一刻も早く正確な情報発信する為に防災ラジオを市内全戸に配布するべきと考えるが如何か。

答 市の課題解消に向け
調査・研究していく

被害状況は、各担当部局で実施したパトロールなどにより把握をした。道路冠水などはあったが、人的被害や住家被害は確認されなかった。ドローンの導入、防災ラジオの配布については、他市町の取組などを参考にして、市の課題解消に向け調査・研究していく。



藤井栄一郎 議員
(清明会)



台風通過後の稲わら被害

問 農業政策で市の現状と
対策について伺う

農家の作付面積や農業従事者の現状はどのようになっているのか。毎年実施されている農家世帯状況調査票の活用は農業政策に反映されているのか伺う。又、今回の台風被害で農作物の被害状況と稲わら処理の被害状況と対策について伺う。

答 有効に使えるデータが
あれば活用したい

直近の農業センサスでは、593 ha,1,100人である。調査内容で有効に使えるデータがあれば今後活用していきたい。台風ではネギやソバに被害があった。稲わらの被害状況は把握していないが、関係各所と連携し、適切に国の支援策を実施していく。